

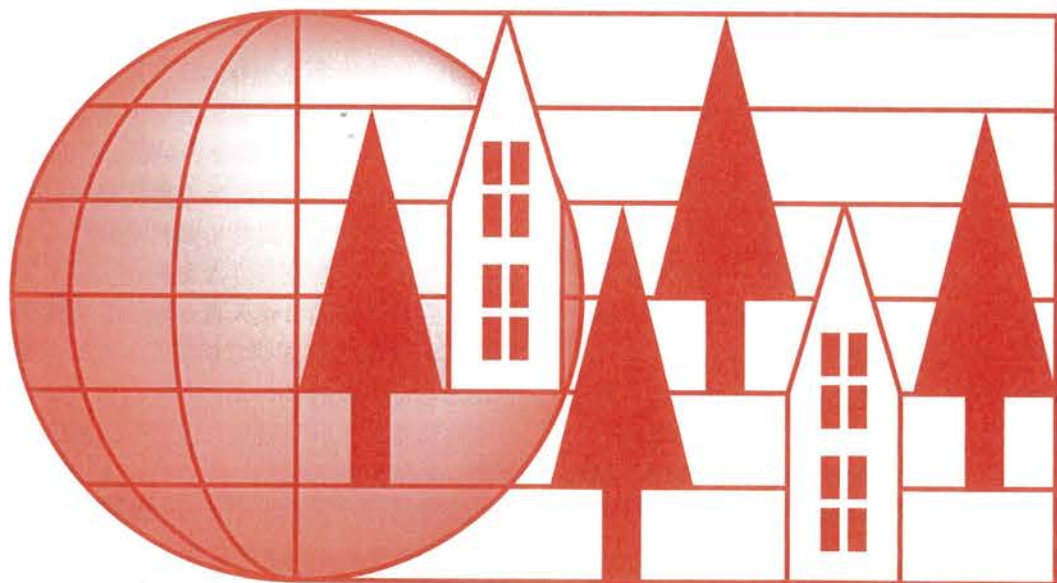
木材建材 ウイクリー

平成28年/2016年
9月26日

No.2081

特集 プレカット業界に再編の波

— 口火を切った生き残り競争 —



Magazine for Building Materials

特集

木材建材 2016年9月26日
ウイクリー No.2081

テクノウッドワークス 人員拡充で次の成長につなげる

一般物件増加で100万坪体制視野

テクノウッドワークス(TWW、栃木県鹿沼市、早川孝男社長)の2015年加工実績は49万1,035坪、テクノONE(同真岡市、同)が14万1,434坪で、グループ全体で63万2,469坪とプレカット2番手を維持している。

加工設備や能力に大きな変更はないが、15年初からパワービルダーとの取引を改めたことで加工量が一時的に落ち込んだ。ただ、昨春策定した中期計画で人員拡充と設備投資を据えており、今後の成長目標を示した。このなかで従来からの住宅用プレカット加工という本業を強化して材木店等の一般物件主体で収益基盤を固めていくことを実行中だ。

現在は新築戸建て需要がおう盛で、TWWは日曜日返上の24時間操業を行っている。8月加工実績は前年同月比約30%増で、少なくとも年内はこの好調さが続く見通し。一方、テクノONEは散発的に24時間稼働だが、基本的に1シフト12時間稼働でまだ加工余力がある。来年半ばに向けてテクノONEの2シフト化を目指しており、TWWで月間4万坪強、テクノONEで同3万坪強を加工して両社で8万坪、年間で100万坪の加工量を視野に入れている。

材木店等からの一般物件が売り上げの柱になったことで収益構造も変わった。同社収益は非公表だが、大手住宅メーカー向け主体の時期と比べると、経常利益で3倍近く改善した模様だ。その分、一般物件の加工は多様で打ち合わせも多く、手間も時間も掛かるようになったという。しかし、こういった小回りを利かせて地場密着型になることで同業他社の追従を受けづらい下地を作っている。

今夏の従業員数(国内)は262人(グループ全体で385人)だが、中途採用を強化していることもあり従業員が増加している。次の成長に向けた人員拡充と社員教育の充実を実行し

ているが、同社では人が集まってくる“社風”を大事にしているという。

「テクノの社風は自由だと思う。建築や工業系の人間はもともと頭が良い人たちであり、時間を惜しまずに働く人が多い。私は裁判所の仕事もあるので会社を不在にすることが多いが、“親はなくても子は育つ”ではないが自ら率先してアイデアを出して行動する社員が育った。もちろん数値管理は徹底しており甘やかすことはないが、社員一人ひとりが自らの責務を果たし、やりがいを持って仕事に向かっていると感じる」(早川社長)と指摘する。

同社は工場大型化によって加工コストを引き下げ、落としたコストで顧客サービス(ソフト、ハード両面)の向上に努めることがビジネスモデルの根幹にある。栃木県内でさらに大型工場を建設する計画だが、それには多くの工具、CADオペレーター、営業と多方面で人材が必要となる。

今後の方針について早川社長は、「プレカットはまさに変革期に入った。プレカット業界で生き残り、さらに成長していくにはその企業の在り方、経営者の資質、そして会社の将来性が問われる。設備や人が増えていかない会社は徐々に衰退していくと思うし、そこで働く人は将来を悲観して去っていくことになる。逆に会社が成長していく姿を見せると人は集まり、知恵が生まれ、活力になる。当社は次の大きな躍進に向けて今は人を集め、育てる時期だと位置付けている。超大型工場の稼働を考えると、新卒を含めて7~8年後には社員1,000人体制を目指していく」と話している。

なお、社員拡充とともに営業所の拡大も図っており、現在の営業所数は首都圏中心に計15カ所(テクノONE、子会社を含む)。営業所の営業は70人体制になっている。◆